



本校の授業改善に向けた視点				
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> 単元や1単位時間における問題解決的な学習を推進する。 全校体制によるノート指導の充実を図る。 1単位授業の中で、児童に考えさせること、教師が教えることを明確にする。 学年の発達段階を踏まえた学習スキルの習得を図る。 問題解決型の学習における話し合い活動の充実を図る。 学年合同の課題別学習を実施し、問題解決能力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 講師の配置により、全学年において算数のTTや少人数指導を行い、基礎・基本の確実な定着を図る。 理科のTTや少人数指導を行い、問題解決学習の定着を目指し、課題別指導により、児童の探求する力を育てる。 補充の時間(春日タイム)やサマースクールの実施により、国語と算数の基礎・基本の確実な定着を図る。 交換授業や教科担任制により、より専門性の高い授業を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「自ら考え共に学び合う子供の育成 ～算数科・理科を通して～」を校内研究のテーマに、算数・理科における問題解決型学習の充実に取り組む。 年間9回程度の研究授業を行い、全教員の授業力を向上させる。 問題解決型の学習スタイルの定着を図るためにノート指導を充実させる。 学年会における教材研究を週ごとの指導計画に生かす。 学力向上企画部を設置し、春日タイムやサマースクール、春日ドリルなど、児童の学力向上に向けて、教材や指導の工夫に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 1単位時間ごとのねらいを明確にした週ごとの指導計画を作成し、授業の評価を行う。 学校関係者評価委員会(学校評議委員会を兼ねる)による学校評価(地域、保護者、児童対象)を行い、授業改善に向け活用していく。 	<ul style="list-style-type: none"> スクールスタッフ教育ボランティアの活用や中学校教員による出前授業を積極的に実施する。 幼稚園児や保育園児とのふれあい、高齢者とのふれあい体験を実施する。 保護者会、道徳授業地区公開講座、学校保健委員会を通して、基本的な生活習慣や規範意識の育成への協力を依頼する。 近隣の農家と協力して野菜を作り、給食の食材として活用するなど、地域と協力して食育を進める。